

令和6年度「健康都市に関する懇談会」 会議要旨

1 開催日時

令和7年2月17日（月）

開会 午後2時

閉会 午後4時

2 開催場所

尾張旭市役所 2階 201会議室

3 出席した構成員（12名）

柳澤理子、佐藤庸子、大津豊一、鈴木一平、青木高直、早川直美（代理主席）、
水野奉徳、伊藤紀子、齋場賢宜、若杉浩二、林幹夫、徳増とし子

4 欠席した構成員（1名）

野々山聖子

5 傍聴者数

0名

6 出席した事務局職員

健康都市推進室長 豊田定史、係長 柳田麻維、主事補 水野愛弓

7 議題等

- (1) 健康都市の推進状況・令和6年度の取組（報告）
- (2) 第3次尾張旭市健康都市プログラムについて（報告）
- (3) 意見交換（これからの健康都市の取組について）

8 会議の要旨

1 開会
・健康都市推進室職員の紹介 ・資料の確認 ・会議進行方法の説明 ・構成員の紹介 ・柳澤理子座長、若杉浩二職務代理者の選出
2 議事

(1) 健康都市の推進状況・令和6年度の取組（報告）

・事務局から、資料に基づいて説明。

・座長の進行のもと、各構成員から次のとおり意見が出された。

●資料8ページの尾張旭市民の健康都市の認知度が約72%とあるが、「おいしい紅茶のまち尾張旭市」の認知度と比べてどちらが、高いのか。

（事務局）まちづくりアンケートの結果から、おいしい紅茶のまちな認知度のほうが高い。健康都市の周知にさらに力をいれていく。

●あさひ健康マイスター手帳は何部発行しているのか。

（事務局）1万部発行している。

●発行部数に対して、あさひ健康マイスター手帳の提出者が少ないのではないのか。提出がないかたはいるのか。

（事務局）マイスター手帳を提出しないが、活用しているかたもいるので、利用者は多いと考える。より多くの人に周知してもらえるように努める。

●愛知医科大学連携公開講座やアプリの利用者数があつたが、想定の人数か。多かたたり少なかたたりするのか。

（事務局）愛知医科大学連携公開講座の参加者は、例年より少なかつた。開催時期がインフルエンザ流行期であつたため、直前で欠席連絡を入れるかたが多かつたことも理由の1つと考える。今後も、多くなかたが参加しやすいテーマで行っていく。

●あさひ健康マイスターのプラチナマイスター（15年連続表彰）の次は何か。

（事務局）現在検討中。シルバーマイスター（5年連続表彰）、ゴールドマイスター（10年連続表彰）、プラチナマイスターは高齢者が多いが、最近では小中学生のマイスターも誕生している。単年度マイスターでも若年層のかたも増えてきているため、プラチナマイスターの次だけを考えるのではなく、長期的な視点で検討する。

●あさひ健康マイスター手帳のウォーキングページをよく利用している。決まったコースや長距離を歩くことは難しい人がある。そのため、そういったかたの歩いた歩数を距離計算し、同じような距離のコースを歩いたことにしている。歩くことのきっかけがなければ、歩くことをやめてしまう。周りに声をかけるようなかたが必要だと考える。

（事務局）あさひ健康マイスター手帳の13ページに自分で決めたコースを10回歩くと10ポイントがもらえる欄が設けてある。距離の指定はないので、散歩コース等を書いてもらうことが可能。気軽に健康づくりができるきっかけにしていきたい。

●もう少しウォーキングの項目を増やしてほしい。自身が怪我をしたことがきっかけで歩く距離が短くなつた。維摩池の周りを歩いたりしているが、前より歩ける距離が短くなつたことを実感している。しかし、ウォーキングをすることで、周りの人に挨拶したりすることができるため、筋トレ等より行いやすいと考えている。そのため、周りの人にも、ウォーキングを勧めている。

●健康づくり推進員会で月1ウォーキングを行っている。年々参加者が減少し

ている。定例会でもどうすれば、参加者が増えるか議論している。このウォーキングはあくまでボランティアのため、何か励みになるようにしたい。そのため、健康づくり推進委員会のウォーキングをあさひ健康マイスターの対象事業に加えてもらうことは可能か。

（事務局）来年度版の手帳を現在作成しているが、健康づくり推進委員会の担当課である健康課から、健康づくり推進委員会のウォーキングの追加について要望があったので、来年度からは手帳に掲載予定である。

●18ページの内容②は具体的にどんなことか。

（事務局）例えば、交通少年団による交通安全啓発がある。歩行者を守ろう、ゆっくり走ろうなどが記載されたプラスチックのサインボード等を手に持って道路脇で運転者等に対して交通安全の啓発を行っている。

●交通ルールを学べるよう、自転車の利用者の意識改善をしてほしい。ヘルメットの着用が義務になったが、ヘルメットを着用していない人もいるので、着用率が上がってほしい。

（事務局）交通安全について、担当課である市民活動課よりヘルメットが義務化されたことで、警察とも連携してPR活動はしていると聞いている。いただいたご意見は担当課に伝える。過去には中学生に対し、自転車事故の再現をスタントマンを用いて実施したこともあったが、現在は行っていない。

(2) 第3次尾張旭市健康都市プログラムについて（報告）

・事務局から、資料に基づいて説明。

（第3次健康都市プログラムの資料に本懇談会構成員の名前が掲載があることの了承含む）

・座長の進行のもと、各構成員から次のとおり意見が出された。

●昔と違い、子どもたちが些細なことで、大きな怪我につながっている。普段の遊びが昔とは違うことも原因の1つであると思うので、子どもの健康づくりのため運動の講習等が含まれているのはよい。

●健康都市プログラムの13ページにある進捗確認はどのように行うのか。

（事務局）まちづくりアンケート等から確認する。これまでも5年ごとに進捗確認を実施している。今後も同様に実施する予定であり、その際には取組のまとめとして資料を作成する予定。

●あさひ健康マイスター手帳の中にある自治会への参加でポイントがもらえることは知らなかった。あさひ健康マイスター手帳の対象事業は、市民団体や事業者等の活動や取組も含まれているとの周知をしてほしい。また、対象事業となる担当課のアナウンスが足りない。

（事務局）身近な活動として自治会の加入が対象であること等は、市民祭など手帳配布時に周知しているが、各団体等の担当課の職員からも周知するよう依頼する。自治会に関しては、市民活動課に年度当初の自治連合協議会の会議の前にあさひ健康マイスター手帳の自治会が関連する対象事業を伝え、アナウンスしてもらうようにする。

●商工会のイベントでスタンプを押したことはあるが、あさひ健康マイスター

手帳の内容のことは知らなかった。自分で記入するものだけか。

（事務局）関係担当課から周知をしてもらうようにする。手帳について、鉛筆マークが書いてある項目は、自身で日付等を記入し、それ以外はイベント等の参加時にスタンプを担当課等に押してもらう。

●あさひ健康マイスター手帳はどこで配布しているのか。

（事務局）必要冊数が多い場合は、健康都市推進室でお渡しする。数冊程度ならば、市役所1階の健康都市コーナー、地区公民館等で配布している。

●市役所の職員だけの周知では、限界がある。そのため、知っているかたが周りに声をかけることが大切だと考える。数年前のマイスター表彰式には、小中学生がいなかったが、最近見かけることが増えてきている。若年層の5年、10年はお年寄りより貴重なものである。そのため、学校・児童クラブ・児童館等とも協力して若年層への参加・周知をしてほしい。

●みらい子育てネットでもあさひ健康マイスター手帳の対象事業として協力している。改めて手帳を見てみると本当に対象となる行事も多いので、今後はポイントを集めたい。

（事務局）今年度の国際大会で表彰された論文には、市民、市民団体、事業者等の協力について評価を受けたものもある。今後もそういったことを皆様に周知していく。

●地域のイベントの際にあさひ健康マイスター手帳の対象になることを周知し、広まっていけばよい。

●市民団体の活動はこの手帳に掲載できないくらいあると考える。この手帳に書かれている活動は参加してポイントが付く形になっている。そのため、市民団体の活動をしている人は、自分たちの主催のイベントにポイントを貯めることを躊躇してしまうのではないかな。もちろん、主催でもイベントに参加していることに変わりはないため、ポイントをためている人もいると思う。また、健康都市のため「からだ・こころ・まち」の健康に関係すれば何でも行っていくイメージがある。輪島市などにボランティアに行ったり、支援することは、あさひ健康マイスター手帳を通してできないか。

（事務局）主催者でもポイントをためやすいように記載する。抽選記念品の中に輪島市賞がある。昨年度は震災直後のため調整が難しかったが、今年度は商品の購入が可能のため、景品として購入することで、少しでも復興の支援になればと考えている。

(3) 意見交換（これからの健康都市の取組について）（報告）

・事務局から、資料に基づいて説明。

・座長の進行のもと、各構成員から次のとおり意見が出された。

●文化スポーツ課から来年度の予算が減少したとして、スポーツ推進委員会の活動予算も減った。健康都市推進室所管分は例年通りの事業数なのか。

（事務局）事業の見直しを行い、事業数は減る。また、全庁的に予算削減を求められている。しかし、スポーツ部門と一緒にすることで、予算がなくとも何

か協力していければと考えている。

●シニアクラブは、８０代、９０代のかたも参加している。しかし、シニアクラブに加入するかたが減ってきているので、皆さんシニアクラブ加入の周知をお願いします。

（事務局）来年度のあさひ健康フェスタでは、高齢者趣味の作業所が出店する。また、展示スペースの提供も行っているため、担当課を通して周知に協力することは可能。

●愛知県の健康寿命の順位が下がってきている。また、小学生女子の体力測定数値の順位が最下位である。尾張旭市の健康寿命や体力測定数値はどうか。

（事務局）本市の健康寿命は、全国や県平均より長い。（Ｒ５：男女とも県平均値＋１．６歳）体力測定数値の結果は、市単位では公表されていないため不明であると担当課から聞いている。

●尾張旭市は、日本を代表するアスリート率が高いと考える。健康というキーワードから、何かその原因を調べることで、より市のＰＲにつながるのではないかな。

●一番でなくとも他の都市より優れているところは市内だけでなく、これからも市外へＰＲしてほしい。そうすることで、市民の誇りにもなるし、今後の様々な活動の継続にもつながっていく。

３ その他

（事務局）本日はいろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。

会議の中で伺った意見は、事務局で整理し、今後の健康都市づくりに反映していきます。

また、本日の会議録につきましては、調製の上、後日送付し、皆様の了解を得たのち、市ホームページで公開します。

健康都市に関する懇談会は、２年任期となるため、次年度についても引き続きよろしくお願いします。

また、令和７年４月からは、健康都市・スポーツ課として様々な取組を行っていくため、今後とも「健康都市 尾張旭」の推進に協力をよろしくお願いします。